

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1892400027		
法人名	社会福祉法人 若狭町社会福祉協議会		
事業所名	認知症対応型グループホーム五湖の郷		
所在地	福井県三方上中郡若狭町田井24-2		
自己評価作成日	平成 29年 10月 7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成29年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月2回のケース会議を行うことで、入居者の状態について、サービス内容の見直し・目標の確認ができています。五湖の郷事業所 他部署との交流、運営推進会議、五湖の郷を利用したカフェへの参加・協力、地域サロンとの関わり等、少しずつ活動にも幅が出てきている。
認知症に対する理解を深めるための活動としても、地域包括支援センターの協力もあり、「認知症について」の話を町内のサロンでさせてもらう場を作ってもらっている。職員の知識や意識の向上にもなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山や湖の自然に囲まれた地域に立地している。同敷地内に地域密着型介護老人福祉施設、ショートステイ、デイサービス、障がい者グループホームが併設されており、県内初の認知症高齢者と障がい者が一緒に生活する拠点となっている。事業所理念である「ともに生き、ともに暮らし、ともに働く」を基に「1. 家族的な雰囲気大切にします。2. ご本人の個性を尊重します。3. 生きがいのある生活を支援します。」という運営方針を作成している。地域のボランティアや近隣の保育所や小学校と交流を持ち、利用者が地域の一員として生活できるよう支援している。今後も、地域での暮らしを支援する福祉の拠点としての展開が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営指針等を確認しながら日々の業務にあたっている。共に生活する事を心掛け、一緒に考え、一緒に活動をしている。	「ともに生き、ともに暮らし、ともに働く」という事業所理念を基に、運営方針を作成している。職員一人ひとりが理念の実現に努めており、職員会議等でも確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・小学校・サロンといった各種団体との交流の場を作り、地域行事への参加を心掛けている。	今年の7月、同敷地内にカフェがオープンし、利用者がスタッフとして参加したり、出向いたりして地域の人と交流している。また、管理者は地域サロンに出向き、介護等の相談や講習を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンへ出向き、認知症についての体験を交えた話をする場を設けることができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告から、事業所への理解を深めてもらっている。地域の現状を聞く中で、一緒に活動計画を立てる等互いの生活の向上につながると感じている。	地域サロン代表、地域包括支援センター、家族代表等の参加により事業所の活動状況を説明し、地域情報等意見交換の場として活かしている。	運営推進会議の開催を利用者家族全員に案内をしていることから、参加していない家族にも議事録を送付するなどの取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やキャラバンメイト連絡会、サロンへの協力等、関わりが増えてきている。	町職員には、日々のサービス提供の中で困ったことを電話で相談し助言を得たり、運営推進会議で助言を得たりして連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を回避するための手段として、センサーの使用や必要最小限の施錠を行っている。拘束している認識を職員が持つことで、安全と拘束しないケアを心掛けている。	玄関は施錠せず、外に出る利用者には付き添って散歩をしている。身体拘束の弊害について日頃から職員間で話し合い、利用者が心穏やかに過ごしてもらえるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で確認し、日々の業務の中で、互いに注意・確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	公の研修は受けていないが、生活を送る中で考え、学ぶ機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・面会時に施設の状況を伝え、家族の想いをきくようにしている。必要時には家族会等で周知してもらう機会を持ち、都度重要事項や同意書を作り説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、電話等で状況報告を行い、家族との話をする場を設けている。計画書に対する同意とともに、家族からの要望を書面でもらえるような様式を作り、職員に周知している。	面談時や電話等を通じて利用者や家族から意見や要望、不満などを把握し、職員で話し合って改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	評価制度を取り入れており、意見を述べることのできる環境を作っている。定例会等で事業の報告・相談をし、職員が運営に参加できる体制をとっている。	職員会議などで意見を出し、話し合うようにしている。また、出た意見は管理者が所長に繋げ、意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所長が現場に足を運び、職員や入居者に声をかけている。面談を行うことで個々の意見をきく場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価制度により、必要と思われる職員への研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を企画している。研修の講師として招き、親睦を深める場も作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別に関わり、想いを聞き出せるような時間をとっている。言葉で伝えることのできない入居者についてはサービスを実施しモニタリングを繰り返すことで過ごしやすい環境を提供できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みのあった時点から、相談窓口として関わられるよう声をかけている。家族が不安や後ろめたさを持ったまま施設での生活を提供することが無い様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれが求めていることを知り、理想に近づけるよう対応を考えている。今後予想される事態についても視野に入れ、対応できるように準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持ち、自主的な行動が行えることを目指している。自分の為だけでなく活動に関しては感謝を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えや受診を任せること、情報提供・相談を行うことで家族に関わってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を待つだけでなく、電話や手紙といった通信手段の援助を行っている。希望する地域行事や、家族行事にも参加できるよう協力体制をとっている。	利用者が希望する馴染みの場所に出向いたり、事業所に知人の訪問がある等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みや生活レベルを考慮し、共同室で心地よい時間が過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談窓口として気楽に連絡をしてもらって良いと伝えている。また、顔を合わせる機会があれば、積極的に声をかけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情から気持ちが読み取れるよう対応にゆとりを持つ努力をしている。必要に応じて、家族も含めて話し合う機会を設けている。	日々の関わりの中から、利用者の思いや意向を把握するよう心掛けている。職員間でも適宜個々の利用者の思いを話し合い、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での生活を持ち込んでもらえるよう空間作りから取り組むようにしている。決まった時間の集団生活にならないよう気を付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄・バイタル・個別活動の様子など、日常を記録する事で変化に気付け、ケース会議で情報を共有しより良い対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を開き、計画の見直しを行っている。各担当・ケアマネジャーが関係者と連絡を取り、個々に合った目標を立てている。	利用者や家族の意向と担当職員や全職員の意見を聞き、利用者の状況に応じた生活の評価とモニタリングを行い、その結果を基に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に対する記録と生活の記録とを意識して書き分けるようにしている。他職員の書いた記録を読み返すことから情報の共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば支援する、要望を見つけて実現させることを心掛け、行事計画を立てている。本人の能力を発揮できる場の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民との交流の中でできた関係を大切にし、より近い関係を築ける場を計画している。農作業は気が向いたときに行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医をそのまま継続している。受診は家族対応となっているため、書面や電話連絡にて医師と連携をとっている。家族の希望に合わせ、病院の紹介等もしている。	本人と家族の希望に沿ってかかりつけ医もしくは訪問診療を受診している。基本的に通院は家族が同行しているが、必要に応じて職員が同行している。また、利用者の健康状態をかかりつけ医や家族と共有し、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師、必要時には施設内の看護師に相談し、助言を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族だけでなく、連携室や必要時は地域包括支援センターにも連絡を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針として重度化した場合について承諾をもらっている。状況に合わせ、早い段階から家族や関係機関と連携を取り、本人や家族に負担がかからないようにしている。	重度化した場合、併設の地域密着型老人介護福祉施設や他施設への移行を支援している。利用者や家族には、利用時に重度化した際や終末期の事業所の対応を説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症に関しては施設内で委員会が設置されており、必要な研修を行えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。屋内・屋外避難や原子力災害等具体的に想定している。独自で毎月避難誘導訓練として集団移動をし、課題を見つけ改善につなげている。地域の協力としては、介護体験を取り掛かりとして計画を進めている。	消防署の立会いの下での避難訓練を実施しているほか、職員が少ない夜間であっても慌てず避難できるように、日常から意識して行動している。また、緊急時に備えて備蓄も行っている。	災害の種類に応じたマニュアルを作成検討されていることから、全職員が災害時に対応できることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、十分でない部分についてお互い注意できる関係作りを進めている。	声掛けの際には、周囲の利用者に分からないようにさりげない介助をしている。不適切な対応があった際は、職員同士がその都度注意するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な提供にならないように意識して支援している。自主的な行動がとりにくい方には、具体的な選択肢を準備し、自分で選ぶことのできる体制を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、時間に追われることが無い様、また、嫌だという意思表示があった時には聞き入れることのできる余裕を持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える洋服の選択を一緒に行っている。いつもと違ったものを提案するようにもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も準備に関われるようにしている。食べ始めやかかる時間、使う道具など少しずつ個別化してきている。	利用者の能力に合わせて配膳やテーブル拭き、おやつ作りなど出来ることを手伝えるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主となる食事メニューは栄養士が管理を行い、看護面では定期的な定住測定で管理をしている。必要に応じて医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、介助等入居者に合わせた援助を行っている。定期的な歯科検診を実施し、歯科医との連携も取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	課題があれば、プランを立て実施、見直しを繰り返し個々に合わせた支援を行えるようにしている。	個々の排泄パターンに応じた支援を行っている。排泄パターンに基づく声掛けやトイレ誘導を行い、気持ち良く過ごせる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みに合った水分の摂取やトイレに座る時間の確保をしながら排便の状態に合わせ、主治医と相談をしながら服薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日は決まっている。状況に合わせて、柔軟に曜日や時間の変更をしたり、入浴する気持ちの準備から取り掛かれるよう時間に余裕を持ち関わっている。	入浴日の設定はあるが、利用者の意思や体調に合わせて時間や曜日を臨機応変に対応し、一人ひとりがゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・明るさに配慮している。健康面や表情をみて、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった薬剤について、看護師より申し送りがあり、その後の様子についても期間を区切り記録を残すなど体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主的な活動を行えるよう、道具等を見える位置に配置したり、個人持ちで準備してある。個別活動の記録を残すことで、職員が提供した活動を引き継いだり興味の有無が把握できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画を立てて外出することは集団でも個別でも出来ている。体制上、職員対応での外出はその日の希望で実施することは難しい。	年間、月間の外出計画のほかにその日の状況に応じて散歩等に出かけ、気晴らしや外気浴を楽しめるように工夫している。	利用者のその日の希望に沿って、屋外に出かけられるよう個々の外出支援の充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を聞き、家族と相談の上、本人の管理できる段階に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持、公衆電話の利用、郵便物の協力等、認識力に合わせ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・整理整頓を実施している。季節に合わせた装飾を入居者とともに作成している。窓を開ける等気候に合わせ外の様子を感じられるようにしている。ほどほどの空調管理により体への負担を軽減させている。	廊下や共用空間には、利用者による創作物等が多数展示されている。大きな窓からは、外の景色が良く見え自然を身近に感じることができる。中庭で、旬の野菜等を栽培している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに椅子が置いてあり、少し離れて全体を眺めることができたり、隣り合わせでソファに座ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの家具持ち込みを入居時をお願いしている。希望に合わせて創作した物・写真を飾り自分の部屋として安心できる居室作りを支援している。	居室には馴染みの家具等の持ち込みが可能で、利用者の作品が飾られるなど、利用者の個性に応じた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ネームプレートや案内板等で自分で確かめることができるようにしている。何事も職員が先回りして支援してしまわないように気を付けている。		